

学位研究 第1号 平成5年3月 (論文)

[学位授与機構研究紀要]

アメリカの学位授与機関(リージェント大学)の仕組みと現況

A Degree-Granting Institution with no Teaching Function
in the United States: A Study on Regents College

館 昭

Akira TACHI

Research in Academic Degrees, No. 1 (March, 1993) [the article]

The Journal of National Institution for Academic Degrees

アメリカの学位授与機関(リージェント大学)の仕組みと現況

館 昭*

はじめに

平成3(1991)年7月の学校教育法及び国立学校設置法の一部改正により、学位授与機構が生まれた。この機構設置の趣旨について、上記の法及び学位規則の改正施行についての文部事務次官通知では、「生涯学習体系への移行及び高等教育の多様な発展の観点から、学位授与機構を新設し、同機構が高等教育段階の様々な学習の成果を評価して学位の授与を行うこととした」(高等教育研究会, 1991年, 193頁)と説明している。

この通知では「様々な学習の成果を評価して」学位を授与するといっているが、前段の「様々な学習」の具体的な内容は、学校教育法に厳密に規定があり、そう広いものではない。大ざっぱに言えば、短期大学・高等専門学校の卒業生等が大学の科目等履修生等として一定の学習を重ねた場合に学士の学位の、いわゆる省庁大学校の学位授与機構認定課程修了者に学士、修士、博士の学位の取得の機会が開けたのみである。(厳密な規定については、関係法規あるいは学位授与機構発行の諸資料によってほしい。)学習の機会は大学以外に広がったとはいえ、学習者の学習の態様にそうした大きな変化はなく、この点では、同時期の大学設置基準関係の改革で、大学が単位を与えることができる「学修」として、技能審査の合格に係る「学修」を認めたことのほうが大きな改革と言える。

しかし、後段の「成果を評価して」学位を授与するという点は、日本の学位制度に新たな原理を持ち込んだことになる。大学は教育機関であり、自らの教育の成果として学位を授与する。(この例外はいわゆる論文博士の場合だけだった。)これに対して、「自らは教育機能を持たず、評価(審査)によって学位を授与する機関」を学位授与機関と定義するならば、学位授与機構はこれに該当する。日本では初めての制度であるが、諸外国におけるこの種の制度については、学位授与機構の設立時にはイギリスに学位授与評議会(CNAA)が存在し、創設の議論の参考にされた。(佐藤, 1991年, 51頁)このCNAAについては、安原義仁論文がある。(安原, 1991年)

ここで紹介するのは、アメリカの例である。リージェント大学(Regents College)は1970年にニューヨーク州に設立された教育機能を持たない大学である。この大学については、今村令子が1978年の『内外教育』に「アメリカの公開大学」を連載した際に取り上げている。(今村, 1990年所収)これは同大学の初期の状況を紹介している。本稿は、筆者が1992年3月に同大学を訪問して得た情報をもとにしたものである。なお、筆者はこの大学について、特に単位累積加算制という側面から『IDE 現代の高等教育』で紹介したことがある。(館, 1993年)

*学位授与機構審査研究部教授

1. リージェント大学の概要と沿革

リージェント大学は、正式にはニューヨーク州教育評議会 (USNY) リージェント大学 (The University of the State of New York Regents College) と称している。

USNYは1784年にニューヨーク州議会が設立した、あらゆるレベルの教育に関する政策の設定、調整機関で、州内の公立と私立、初等から高等までのあらゆる教育機関(図書館、博物館、歴史協会等を含む)によって構成される。この意志決定機関が評議員会(The Board of Regents)で、リージェント大学の名前は、「評議員」に由来する。評議員長は同時に州教育省長官で、またリージェント大学の学長でもある。USNYの評議委員会は、リージェント大学の評議会でもある。(Regents College, 1992, p. v)

USNYについては、これを「大学区」と訳している例に出会うが、「区」という意味はない。またこのユニバーシティには教育機関としての大学という意味はない。ユニバーシティの語は元々、ギルドと同じで、同業組合を意味したと言われているが、この場合にそれに近いニュアンスが感じられる。また、ナポレオン学制時代のフランスのユニヴェルシテール(universitaire)との類似点もあり、今後研究をすすめるべき課題である。

なお、USNYはしばしばSUNY(ニューヨーク州立大学, the State University of New York, SUNY)と混同されるので注意を要する。後者は、州立大学(四年制大学とコミュニティ・カレッジ)の連合体である。したがってSUNYはUSNYの一部ということになる。

同大学が、地域大学基準協会の再認定審査のために用意した『自己評価報告書』(Regents College, 1992)によると、リージェント大学は、USNYの評議員会が「何を知っているかが、その知識をどこで、どうやって獲得したかよりも重要である」を理念として、1970年に州教育省内に設立した実験プログラムで、当初はリージェント学外学位プログラム(Regents External Degree Program)と称していた。

その設立の背景には、同評議会が1963年以来進めてきた大学レベル実力認定試験制度(College Proficiency Examination Program)の実績があった。現在この試験はリージェント大学試験と称され、大学の重要な事業の一つとなっている。又、州外ではこの試験はアメリカ大学テスト協会(ACT)によって運営されACT/PEPとして知られている(Levine, 1978, p. 158)。

この学外学位プログラムにはフォード財団とカーネギー財団からそれぞれ40万ドルづつが投入されスタートした。ちなみに現在まで500万ドルの寄付が、プログラムの開発につき込まれている。

1972年、学芸準学士(A.A.)と科学学士(B.S.)(経営)の学位が設定され、最初の学位が77名に授与された。1974年には自由学芸分野で科学準学士、学芸学士、科学学士が導入された。さらに、1975年には看護分野で科学準学士(看護)、応用科学準学士(A.A.S.)(看護)が設定され、同時に全米看護同盟による基準認定を受けた。1976年には科学学士(看護)が導入され、翌1979年に基準認定を受けている。また1977年に大学が地域大学基準協会の認定を受けている。

1984年に大学は科学準学士、同学士(原子力技術)を導入、1985年には科学準学士、同学士(コンピュータソフト)、科学準学士、同学士(電子技術)、科学学士(コンピュータ技術)、科学準学士

(経営)を導入している。さらに、1992年には科学準学士、同学士(専門技術)を導入、現在学位の種類は18種類になっている。

現在、技術分野の学位について、工学技術基準協会(ABET)の基準認定を準備中であり、また経営、教育、看護の分野で修士レベルの学位のプログラムが検討されている。

この様に多彩な発展をとげた結果、現在大学は約14,000人の登録学生を持ち、この20年間に授与した学位の総数は46,000人を越えている。毎年の新規入学者は約8,000人、学位授与者数は約4,000人である。また、学士取得者のうちの約3分の1がさらに上級の学位をめざしており、準学士の内の半数以上がさらに勉強と継続しているというデータがある。

1991年、評議員会は全会一致で同大学の永続化と州教育省からの独立を決定した。リージェント大学は実験の段階を終え、制度的定着の段階に入ったのである。

上記の『自己評価報告書』の記述によると、「リージェント大学は、評価機関である。事実、それは合衆国内で唯一の評価のみに機能を限定している高等教育機関である。」と書いている。この位置づけは、日本の学位授与機構の類似している。ただ、この大学は上記の様な複雑な設置形態をとっており、州の関与が大きいものの分類上は私立大学として位置づけられる。(Regents College, 1992, p.1)

2. 専攻分野と該当単位

リージェント大学のカリキュラムは、どの学位取得の際も共通の一般教育科目と学位の分野及び分野内の専攻に応じた専攻科目で作られている。この作成の任に当たるのは、審査教員は、自由学芸/一般教育、経営、看護、技術(電子/コンピュータ)、技術(原子力)の分野ごとに学位プログラム委員会を構成している。

この審査教員には、当初はすべてニューヨーク州内の大学の教員が非常勤で当たった。現在でも、部門ごとの長のみが専任で、他の教員は非常勤でまかなっている。

以下は、分野ごとの専攻である。(Regents College, 1992, p.17)

- 経営：経営一般、会計、財務、国際経営、経営情報システム、人事労務、マーケティング、経営数理
- 自由学芸：自由研究、地域研究、生物学、化学、経済学、外国語・文学(非西洋)、外国語・文学(西洋)、地理学、地質学、歴史学、英文学、数学、音楽、哲学、物理学、政治学、心理学、社会学
- 看護：看護学、人事労務
- 技術：技術一般(化学技術、コンピュータ技術、電子機械技術、電子/器具技術、製造技術、機械/冶金技術、原子力技術、光学技術)、コンピュータ情報技術、コンピュータ技術、電子技術、原子技術

このように、リージェント大学の専攻分野は1でみてきたような歴史的な経過とともに組み立て

られたもので、通常大学でカバーする専攻分野を網羅するものではない。この点は、日本の学位授与機構と大きく異なる所である。

リージェント大学が認める単位は、以下の通りである。(Regents College, 1992, p.18)

○大学基準協会認定大学の単位

- ・教室授業
- ・テレコース
- ・ビデオコース
- ・自立学習(インディペンデント・スタディ)
- ・通信教育

(例)

インディアナ大学
オハイオ大学
ペンシルバニア州立大学
ネブラスカ大学リンカン校

○大学レベルの実力試験

- ・ACT/PEP(アメリカ大学テスト協会/実力試験プログラム)
- ・RCE(リージェント大学試験)
- ・CLEP(大学レベル試験プログラム)
- ・DANTES(国防省非伝統型教育支援活動)
- ・TECEP(トーマスエジソン大学試験)
- ・オハイオ大学試験
- ・大学院入学共通試験(GRE)科目テスト
- ・ノースカロライナ大学試験
- ・アドバンストプレイズメント試験
- ・ヘブライ大学試験

○ACE認定プログラム又はニューヨーク PONSI(大学外教育プログラム)

- ・企業訓練プログラム
- ・公式の軍事訓練
- ・経営訓練プログラム
- ・産業訓練プログラム
- ・プロプライアトリ学校
- ・職業免許又は資格
- ・専門職試験

○看護実力試験

- ・看護臨床試験

- ・健康診断試験
- ・技能試験
- ・専門職能試験

○特別な方法

- ・特別評価試験
- ・連邦航空管制資格

ここで、気がつくのは単位の取得機会がアメリカ社会に豊富に用意されていることであろう。リージェント大学の設立に USNY 評議員会の大学レベルの実力認定試験が先行していたことはすでに述べたが、その他にもこの種のテストが全米的に存在する。看護実力試験は、臨床の技術までも含むもので、ニューヨーク州独自の制度である。

ACE 認定プログラム又はニューヨーク大学外教育プログラム (PONSI) は、企業や官庁の常設的な教育訓練課程を審査して大学レベルの授業として査定する制度で、査定に通るとどういふ分野の何単位分に相当するかの推薦を受ける。それを履修した学生が大学に対して単位認定を求めた際、大学はそれをもとに判断を下す。リージェント大学では、この単位が有効と認めているのである。

3. 学位取得のプロセスと登録・助言制度

実際、学生がどのようなプロセスで学位取得にいたるのかを、大学の発行する『自己審査及び計画の手引き』(Regents College, 1991a, pp. 15-16) によってみてみよう。

1. カタログを読む。
2. 学位プログラムを一つ選ぶ。
3. 登録申込書に必要事項を記入する。
4. 「ニューヨーク州教育評議会」宛の小切手を記入済み登録申込書に添付する。
5. 登録申込書をリージェント大学財務部に送る。
6. 記録部が登録手続きを行う。
7. 約 4 週間後に、記録部から登録確認書 (EVF) が送付される。
8. 登録確認書 (EVF) をみて、もし訂正が必要なら返送する。
9. これらと同時に、正規の成績証明書 (場合によっては、コース説明を添付して) を直接にリージェント大学に送付するように、大学、試験機関等に請求する。
10. 記録部から成績証明書の受領を葉書で通知する。
11. 登録申込書の成績証明書請求一覧に記載されたすべての成績証明書がそろい次第、記録の評価手続きに入る。
12. 公式の評価は 6 週間から 8 週間を要する。コース内容の説明を必要とするケースではこの期間はいくらか長くなる。
13. 学生は単位を学位の要件に従って分類し、学位の取得に必要な単位の種類と単位数を示した

「現状報告」と「現状報告情報シート」を受け取る。

14. この時点で、学生は学位プログラムの残余単位の取得計画を立てる。(これを実行する学習者はより学位の取得に成功する可能性が高まる。)もし質問がある場合は、学習アドバイザーに電話((518) 474-3703)で相談することができる。
15. 新しく単位を取得したなら、正規の成績証明書をリージェント大学の記録部へ送ってもらう。学習アドバイザーが学生の現状報告を更新する。
16. もし登録が1年を越える時は、年間助言・評価料(AAFF)が請求される。この料金は12カ月間の学習成果の評価、助言、プログラム計画及び記録の保存を保証する。1年を越えて登録を維持するには、AAFFの支払が必要となる。
17. すべての学位要件が満たされたときみなされると、該当の教授委員会が学生の記録を検討する。承認されると、教授会は学位を次の授与予定日に授与するよう評議員会(the Board of Regents)に推薦する。
18. プログラム修了・卒業料の請求を受ける。
19. 評議員会が学位を授与する。
20. 学生はプログラム修了・卒業料を払った後、学位記と成績証明書を受け取る。
20. 年1回の卒業式がオルバニー(州都, USNI所在地)で、通常は6月に開催される。本人の希望に応じ、該年度のすべての卒業者が招待される。

プロセスは以上のようなものである。ちなみに学位取得までの費用については、1991年9月現在の「料金表」によれば、入学/初期評価料450ドル、年間助言・評価料230ドル、プログラム修了・卒業料準学士候補者215ドル、学士候補者240ドル、その他では遅滞料25ドル、転料料170ドル、成績証明書料7ドル、至急証明料8ドル、証明書更新料85ドル、特別審査料825ドル、不渡り小切手返還料20ドルとなっている。

このように、リージェント大学は評価によって学位を与える機関であるが、登録制を取り、登録者に履修上の助言を行っている。この助言機能は大学の中心機能とされ、それを担当する指導教員(academic advisor)の責任は重要性を増してきているという。(Regents College, 1992, p. 26)

おわりに

以上で、リージェント大学の仕組みと現況について大枠を紹介した。この大学の仕組みについては、さらにカリキュラム、成績評価、教員の構成や役割など紹介すべき点が残っている。これらの諸点については、次回に検討、紹介したい。

また、こうした弾力的な制度は、機会の拡大というメリットとともに、学位の水準面、あるいはデグリーミルと言った詐欺的機関との対決といった問題点も生み出す。スチュワートの研究によれば、この種の機関がリージェント大学の看護学士とまぎらわしい行為をした例があるという。(Stewart, 1988, p. 166) アメリカの学位授与機関では、こうした問題に対して、どのような取り組みがなされているかなど、今後研究すべき課題は多いのである。

参 考 文 献

- 今村令子『永遠の「双子の目標」』東信堂, 1990年.
- 高等教育研究会編『大学の多様な発展を目指してⅡ』ぎょうせい, 1991年.
- Levine, Arthur, *Handbook on Undergraduate Curriculum*, San Francisco: Jossey-Bass, 1978.
- Regents College, *Business Degrees Catalog*, 1990.
- Regents College, *Self-Assessment and Planning Manual*, 1991a.
- Regents College, *Liberal Arts Degrees Catalog*, 1991b.
- Regents College, *Nursing Degrees Catalog*, 1991c.
- Regents College, *Technology Degrees Catalog*, 1991d.
- Regents College, *Regents College: Access, Excellence and Change* (Prepared for the Middle States Association of Colleges and Schools), 1992.
- 佐藤禎一「学位授与機構の創設と学位制度」(『I D E 現代の高等教育』) 1991年7月号.
- Stewart, D. W. & Spille, H. A., *Diploma Milles: Degrees of Fraud*. New York: American Council on Education and Macmillan, 1988.
- 館 昭「リジェント大学の仕組みと現況—アメリカの単位累積加算制度について—」(『I D E 現代の高等教育』) 1993年3月号.
- 安原義仁「英国学位授与審議会による単位累積互換制度」(『I D E 現代の高等教育』) 1991年7月号.

A Degree-Granting Institution with no Teaching Function in the United States: A Study on Regents College

Akira TACHI*

The National Institution for Academic Degrees (NIDA) was founded in 1991 as an institution which grants degrees through assessment and has no teaching function. Though the direct model of NIAD was the Council for National Academic Awards (CNAA) in the United Kingdom, which closed its nearly 30 year history in 1992, some similar institutions have long existed.

The University of the State of New York Regents College is a good example. It is the oldest and almost the only higher education institution in the United States which is devoted exclusively to assessment.

The college had an experimental beginning as the Regent External Degree Programme in 1971 on the belief that what an individual knows is more important than how and where that knowledge was acquired. In 1972 the Associate in Arts and the Bachelor of Science in business degrees were introduced, and the first 77 degrees were conferred. Now the college has several Associate and Bachelor degree programs (A.A./A.S. Liberal Arts, A.A./A.A.S. Nursing, A.S. Business, A.S. Technology, B.A./B.S. Liberal Arts, B.S. Nursing, B.S. Business and B.S. Technology) and serves nearly 14,000 degree candidates each year. Over 45,000 have graduated from this college. The institute was first accredited by the Middle States Association of Colleges and Schools in 1977.

In 1991 the Board of Regents of the University of the State of New York approved the college to move to free-standing status from the State Department of Education. The experimental period ended and the new period has begun.

Non-traditional credit awarding programs, like the College-Level Proficiency Examination Program or business/industry training evaluated by the PONSI of American Council of Education have contributed to its success.

*Professor, National Institution for Academic Degrees.